

ふるさとの自然や人に学びながら、「なりたい自分」を目指し、気づき、考え、挑戦する子供の育成 ～魅力発見！守り、広げよう「湖南の宝」～

1 はじめに

湖南小学校は、統合を重ね、3つの地区からなる広い校区をもつ。校区には至る所に竹林があり、子供たちにとって馴染みが深い。また、仏生寺地区には、原木椎茸農家や川の環境保全に携わる方、神代地区には手作り豆腐職人や福祉施設、布勢地区にはきずなの森等があり、教育資源や人材が豊富である。

総合的な学習の時間を核として、地域の環境や自然を生かした仕事に携わる方との交流や湖南の特色である竹を使った体験活動等のふるさと学習を推進することにより、ふるさとの自然や人に学びながら、「なりたい自分」を目指し、気づき、考え、挑戦する子供の育成を目指したいと考え、本実践を行った。

2 活動の実際

(1) 3年生の取組 総合的な学習の時間「湖南の『きらり』を見付けよう」

2年生の時に生活科で学習した地区探検をさらに進め、湖南のよいところや自慢できることを「きらり」とし、「きらり」見付けを行った。その中で、食に関する「きらり」を中心に、以下の実践を行った。

① 手作り豆腐職人との豆腐作り

校区にある関商店は、これまでも生活科の地区探検等で繰り返し関わってきている。また、学校給食の納入業者でもあり、校区に欠かせない商店である。看板商品である手作り豆腐を家庭で食べたことのある子供も多い。

3年国語科「すがたをかえる大豆」の学習と関連付けることにより、「どのようにして作っているのか」「苦労や工夫について知りたい」と具体的な疑問が生まれたり、豆腐作りへの興味・関心を高めたりすることができた。そして、ゲストティーチャーとして関さんを招き、調理工程を体験することにより、豆腐作りの技術やコツを学ぶことができた。気温によって水の量や温度を変えておいしさを保つこだわりや、毎日、早朝から豆腐を作り続け「地域の方においしい豆腐を届けたい」という関さんの思いや願いに触れ、「手作り豆腐はもちろん、地域みんなのために作り続ける関さんが『きらり』だ」と地域のよさや魅力を感じることもできた。



<大豆の変化を観察する子供>



<豆乳を温める子供>



<豆腐作りの秘密を聞いている様子>

(2) 4年生の取組 総合的な学習の時間

「湖南の環境を見つめよう～地域のつながりと自分～」

4年生は、環境への意識が高まってきた。そこで、4年生では、地域の環境をテーマに、以下の実践を行った。

① 仏生寺川の調査活動（中流・上流）

校区には、絶滅危惧種であるイタセンパラをはじめとして、ドジョウ、ギンブナ、ヨシノボリ等、26種の淡水魚類が確認されるなど、豊かな生態系を保つ仏生寺川が流れている。また、富山大学理学部・氷見市連携研究室が運営している「ひみラボ水族館」は、仏生寺川に生息する淡水魚の展示を中心とした研究展示施設である。隣に仏生寺学童保育があり、生活科の地区探検等でも度々訪れる、子供たちに親しまれている施設である。

ゲストティーチャーとして、ひみラボ水族館学芸員の西尾さんを招き、2度（1回目は中流、2回目は上流）の調査活動を行った。実際に川の中に入り、多様な淡水魚を採取し、持ち出してよい淡水魚は学校で観察・飼育することにした。子供たちは、淡水魚について詳しく調べたり、飼育したりする中で、仏生寺川の豊かさに気付くことができた。また、地域の環境を守るために活動する人々の思いに気付き、地域の一員として自分たちにできることを考え、実践した。例えば、仏生寺川の淡水魚について調べたことを全校児童に伝えることで仏生寺川を大切にしようと訴えたり、地域の環境をきれいにしようと清掃活動に取り組んだりするなど、同じ課題をもつ子供同士がグループとなり、活動した。



<仏生寺川中流での調査活動>



<仏生寺川上流での調査活動>



<取組について話し合いを重ねたり、調べまとめたりする様子>

② 原木椎茸栽培農家との菌打ち・収穫体験

原木椎茸栽培農家の六田さんは、「原木椎茸のおいしさを知ってもらい、原木椎茸栽培を守り伝えたい」と考えており、統合前の仏生寺小学校の頃から原木椎茸の菌打ち体験や収穫体験をさせていただいていた。原木椎茸は菌床椎茸とは違い、クヌギ・ナラ等の広葉樹の枯れ木に植菌し、山の中で最低2年をかけて自然に近い形で栽培される。食感は肉厚で、香りが豊かで大変美味である。しかし、気候の影響を受けやすく、大量生産や安定した生産が難しいため、現在も原木椎茸栽培を続け

ているのは、市内では仏生寺地区だけとなった。

昨年度末に菌打ち体験を行った4年生は、12月に原木椎茸を受け取り、学校で栽培を続け、収穫した。子供たちは、収穫した原木椎茸を自宅に持ち帰り、家族で味わった。実際に原木椎茸を食べることでそのおいしさに気付くとともに、「校区の原木椎茸は宝であり、これからも守り伝えたい」と考えるようになった。また、里山と川はつながっており、豊かな里山を保つことが仏生寺川の豊かな生態系につながっていること等、地域の環境についてより広く深く考えることができた。



<昨年度末…菌打ちをしている様子>



<今年度…原木椎茸を受け取る様子>

(3) 5年生の取組 総合的な学習の時間

「考えよう身近な福祉～自分たちにできることを見付けよう」

5年生は、地域の身近な福祉をテーマに、校区の福祉施設や保育園と連携しながら、追究を行った。相手を思いやる気持ちを高め、6年生の取組につなげていく。

① 明善寺デイサービス「あんのん」の訪問

校区にある福祉施設「あんのん」を訪問した。高齢者疑似体験では、高齢化による身体的不自由さを体験し、高齢者の気持ちを考えることができた。「器具を付けると手足が上がりやすく、思ったように動けない」「見えにくさや聞き取りにくさがあることが分かった」などの感想が聞かれ、その後の交流においては、お年寄りの立場に立って、身振り手振りを付けながらゆっくりと話す子供や目線を合わせて笑顔で相槌を打つ子供の姿が見られた。一方で、どう接してよいのか戸惑う子供や思ったように交流できない子供の姿も見られた。しかし、高齢者や職員の方から声をかけていただくことで、緊張がほぐれ、少しずつ会話を交わすことができるようになってきた。子供たちは、高齢者とのふれあいを通して、地域の方の温かさに気付き、さらに自分たちにできることを考え、交流を深めたいと考えている。



<高齢者疑似体験>



<かるたをして交流する様子>



<一緒に「ふるさと」を歌う様子>

② 年長児への学校紹介

来年度入学する年長児は、毎年学校見学を行っている。その際、5年生が1年生とともに学校紹介を行った。1年生は学習の紹介や学習体験を行い、5年生は年長

児と手をつなぎながら、図書室、保健室、音楽室を回り、特別教室の紹介をしたり、レクリエーションをしたりした。

来年度、1年生となる年長児と最高学年になる現5年生がつながりをもつことで、最高学年としての自覚が芽生えた。年長児の様子を見ながら階段をゆっくりと歩いたり、優しく声をかけたりする5年生の姿が見られ、入学を楽しみにしている様子うかがえた。次年度はさらに連携を深め、保育園訪問等も行いたいと考えている。



<手をつないで校舎を回る様子>



<図書室の紹介をしたり、プレゼントを渡したりする様子>



(4) 6年生の取組 総合的な学習の時間

「魅力発見『湖南の宝』～大切な場所を守り、魅力を広げよう～」

校区には多くの竹林がある。例年、6年生は校区の竹について調べたり、竹の活用法を考えたりし、竹楽器作りや門松製作を行っている。しかし、子供や教員だけでは材料となる竹を伐採することが年々難しくなっている。そこで、今年度はフォレストリーダーだけでなく、ひみ竹林ネットワーク Team Viva Bamboo の協力を得て活動を進めた。Team Viva Bamboo は、氷見市内の竹林に携わる個人・団体が一つのチームとなり、竹林の整備・保全活動を進めるネットワーク団体である。

① 流しそうめん体験

Team Viva Bamboo の三上さんと出会い、竹の可能性について相談したところ、子供たちの「校区の竹で流しそうめん体験をしてみたい」という願いを叶えることができた。Team Viva Bamboo の方の指導の下、「きずなの森」で伐採した竹を運び、縦に割ったり、節を削ったりし、そうめん台を作った。また、その作業と同時に、竹の器と箸を作った。初めて流しそうめんをする子供がほとんどで、流れてくるそうめんに歓声を上げながら、慣れない手付きでつまみ、楽しくおいしく食べていた。改めて竹の魅力や可能性について考えることができた。



<竹を伐採し、運ぶ様子>



<竹の食器づくり>



<流しそうめんを楽しむ様子>

② 竹楽器作り

フォレストリーダーの方の丁寧な指導の下、5年生とともに竹楽器作りを行った。

4種類の楽器から自分で選んだ楽器を一人一人が製作することができた。夏に PTA 親子活動として行われる HAPPY 湖南コンサートでは、竹楽器を使って演奏をし、地域の方へ竹の魅力を伝えることができた。



<説明を聞きながら竹楽器を作る子供>



<HAPPY 湖南コンサートの様子>

③ 門松作り

竹の有効活用として、2年前から門松を製作し、お世話になった方へプレゼントしたり販売したりしている。地域の方にとっても好評で、「今年も製作するのか」「注文したい」などの声上がるほどである。その地域の方の思いや願いを受け、今年度も門松を製作することにした。フォレストリーダーの方や Team Viva Bambooの方と共に130個以上の門松を製作し、保護者や校区内にある中学校や保育園、福祉施設にプレゼントしたり、校区の2つの商店と市内の1つの商店で販売したりした。地域の方に喜ばれていることを実感することで、地域の役に立つ喜びを感じ、地域社会に参画していこうとする気持ちを育むことにつながった。

また、放置竹林の問題や里山の保全に取り組む(株)中越パルプに、門松作りの際に生じた竹の端材等を持ち込み、竹紙と交換していただいた。その竹紙は、3月に卒業証書として子供たちの手元に届く予定である。



<門松用に竹を斜めに切る様子>



<飾り付けをする子供>



<販売体験の様子>

3 おわりに

これからも、子供たちがふるさとの自然や人に学びながら、「なりたい自分」を目指し、気付き、考え、挑戦することができる教育活動を工夫・発展させることにより、ふるさとに誇りや愛着をもって生きていくことができるようにしたい。前学年での学びや経験を生かすなど系統性を意識し、繰り返し地域の教育資源や地域人材と関わることで、さらに子供たちの気付きを促し、より主体的な学習となるようにしたい。

また、ふるさとの豊かさや有難さを楽しむだけでなく、地域の一員として「湖南の宝」を守り、広める活動を発展させていきたい。そして、これまでのつながりを大切にしながら交流を広げ、持続可能なふるさと学習を推進していきたい。